本格的なトップリーダー・ミドルリーダーを育成する研究科

看護現象を科学的に解明する研究を通して
看護学とチーム医療の発展に資する高度看護職者を養成。

看護学研究科は、地域の保健医療福祉並びに教育環境の向上に寄与するために、「和」の精神と人間の尊厳を基盤とし、広範な視点から看護学の学識を教授し、高度専門職業人として、変化に創造的に対応できる看護学の専門的知識と技術及び教育研究能力をもつ人材の育成を教育目的としています。

少子高齢化に伴い、看護職が活躍する組織や組織を構成する人々の職種は多種多様となり、さらにケアの受け手である市民の意識は変わりつつあります。そのため、現場では多重課題を多職種で協働しながらチームとして質の高いケアの提供に繋げ、かつ組織運営や安定的な経営改善もできるような人材が求められています。また、看護現象を的確にとらえ、科学的かつ論理的に探究・分析し看護学を発展させると同時に、多職種が協働しながら課題解決していくことに応えられるような看護職を育成する学部段階での教育を担える教育研究者も必要となっています。

そこで、本研究科では、**高度な組織管理、経営管理のできる能力を有するトップリーダー及び協働する力とマネジメント力を有するミドルリーダーの育成**、並びに**大学等における組織マネジメント力・多職種連携の知識・技術を有する教育研究者を育成**します。看護実践の質的向上に真摯な姿勢で取り組み、実践並びに教育の分野においてリーダーとして活躍したい人に入学いただきたいと思います。

看護学研究科長(就任予定)
教授 水戸 美津子 みと みつこ

博士(学校教育学)。専門分野は看護管理学、看護教育学、老年看護学。臨床看護師のキャリア形成に関わる研究や病院及び在宅分野の看護管理に関する研究に取り組む。

ディプロマ・ポリシー 学位授与の方針

本学は聖徳太子制定の十七条憲法の理念である「和」を建学の理念としている。その内容は以下のとおりである。
①豊かな人間性を育成する
②多様な他者との共感的な関係を築く力を養う
③様々な人々と協調し、協働する力を養う

本研究科のディプロマ・ポリシーも建学の精神「和」に基づき、次の3つを柱としている。
1)生命の尊厳と人権の尊重に基づく倫理観をそなえた看護職として、管理・教育・研究・実践の場でリーダーとして行動できる能力を有する。
2)総合的視野に立って、多職種多機関と協働して最適な保健医療福祉サービスを統合して提供できるようなマネジメント力を有する。
3)保健医療福祉及び教育の場における課題に関して主体的に取り組み、科学的・論理的な分析に基づき検討・提言する能力を有する。

専門基礎科目

<必修科目>
看護学研究法I、看護マネジメント論、教育哲学、医療倫理

<選択科目>
看護学研究法II、看護学理論、看護継続教育論、保健・医療統計学、教育方法の理論、医療システム安全学、医療経営学、医療制度論、生涯教育論

専門科目

看護教育・管理学分野

看護教育学領域
- 看護教育学特論I
- 看護教育学特論II
- 看護教育学演習I
- 看護教育学演習II

看護管理学領域
- 看護管理学特論I
- 看護管理学特論II
- 看護管理学演習I
- 看護管理学演習II

実践看護学分野

成人看護学領域
- 成人看護学特論I
- 成人看護学特論II
- 成人看護学演習I
- 成人看護学演習II

精神看護学領域
- 精神看護学特論I
- 精神看護学特論II
- 精神看護学演習I
- 精神看護学演習II

母子看護学領域
- 母子看護学特論I
- 母子看護学特論II
- 母子看護学演習I
- 母子看護学演習II

地域看護学領域
- 地域看護学特論I
- 地域看護学特論II
- 地域看護学演習I
- 地域看護学演習II

老年看護学領域
- 老年看護学特論I
- 老年看護学特論II
- 老年看護学演習I
- 老年看護学演習II

▶ 特別研究(修士論文) ▶

教育目標

①高い倫理観と広い視野をもって組織運営の改善・改革を促進できる高度な看護実践力を育成します。
②保健医療福祉並びに教育分野での連携などに対応するために、他分野の専門職と協働して問題解決を図るための高度なコミュニケーション力及び合意形成力や看護を管理・指導する力を育成します。
③看護現象を科学的かつ論理的に探究・分析できる研究力を育成します。

▶

育成する人物像

①高度な組織管理、経営管理のできる能力を有するトップリーダー及び協働する力とマネジメント力を有するミドルリーダー
②大学等における組織マネジメント力・多職種連携の知識・技術を有する教育研究者

カリキュラム・ポリシー 教育課程編成の方針

カリキュラムは以下のポリシーに沿って編成する。

1）深い人間理解に基づく倫理観の涵養

生命の尊厳と人権の尊重に基づく倫理観と思想性を備えた人材の育成のために主たる科目として専門基礎科目に「教育哲学」「医療倫理」を置く。

2）保健医療福祉及び教育の場における課題に主体的に取り組むリーダーとして行動できる能力の育成

最適なサービスを提供できる高度な管理能力や指導力及び実践力を育成するために専門基礎科目に「看護マネジメント論」「看護継続教育論」「医療システム安全学」「医療経営学」「医療制度論」「生涯教育論」を置く。

3）科学的判断力・思考力の育成

科学的・論理的な分析に基づき検討・提言する能力を育成するために専門基礎科目に「看護学研究法Ⅰ」「看護学研究法Ⅱ」「看護学理論」「教育方法の理論」「保健・医療統計学」を置く。また、様々な看護現象を研究的に探究する能力を身に着けるために研究科目に「特別研究」を設定する。

4）高度な専門的知識・技術の育成

専門科目には、修了後のキャリア・デザインにもとづく、各自の課題に沿った体系的な探求を可能とするために2分野7領域を置く。また、専門科目には、探求を積み重ねて各領域の専門性を深めるためにそれぞれに特論Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱを置く。

入学から修了までの指導プロセス（標準）

1 年 次
- ● 4月～ 入学、オリエンテーション、履修登録、関連文献の検討及び精読、専門基礎科目の履修、専門科目の履修、研究課題の焦点化
- ● 2月 研究計画書の構想発表
- ● 3月 テーマの明確化、研究計画書の修正提出、研究計画書の研究倫理審査会への提出

2 年 次
- ● 4月～ 履修登録、研究計画書に基づきデータ収集・分析、研究結果の精査
- ● 11月 修士論文審査願いの提出
- ● 1月 論文提出
- ● 2月 研究発表会、論文審査、最終試験
- ● 3月 修士課程修了及び学位記授与

履修モデル（標準）

1）高度な組織管理、経営管理のできる能力を有するトップリーダー及び協働する力とマネジメント力を有するミドルリーダー

【トップリーダー】（例：病院の看護部長、訪問看護ステーションの管理者、福祉施設等の施設長）

	専門基礎科目				専門科目			研究科目
	必修科目		選択科目		主領域		他領域	
1年次前期	看護学研究法Ⅰ	教育哲学			看護管理学特論Ⅰ	看護管理学演習Ⅰ		特別研究
1年次後期	医療倫理	看護マネジメント論	保健・医療統計学	医療システム安全学	看護管理学特論Ⅱ	看護管理学演習Ⅱ		
2年次前期			医療制度論				看護教育学特論Ⅰ	
2年次後期			医療経営学					

【ミドルリーダー】（例：病院の師長、主任、部署リーダー） ※成人看護学領域を選択した場合

	専門基礎科目				専門科目			研究科目
	必修科目		選択科目		主領域		他領域	
1年次前期	看護学研究法Ⅰ	教育哲学		看護継続教育論	成人看護学特論Ⅰ	成人看護学演習Ⅰ		特別研究
1年次後期	医療倫理	看護マネジメント論	保健・医療統計学	医療システム安全学	成人看護学特論Ⅱ	成人看護学演習Ⅱ		
2年次前期			医療制度論	生涯教育論			老年看護学特論Ⅰ	
2年次後期								

2）大学等における組織マネジメント力・多職種連携の知識・技術を有する教育研究者

（例：看護系大学の教員、看護専門学校教員）

	専門基礎科目				専門科目			研究科目
	必修科目		選択科目		主領域		他領域	
1年次前期	看護学研究法Ⅰ	教育哲学		看護学理論	看護教育学特論Ⅰ	看護教育学演習Ⅰ		特別研究
1年次後期	医療倫理	看護マネジメント論	看護学研究法Ⅱ	保健・医療統計学	看護教育学特論Ⅱ	看護教育学演習Ⅱ		
2年次前期			看護継続教育論	教育方法の理論			看護管理学特論Ⅰ	
2年次後期								

奨学金制度

学生のうち人物、学力ともにすぐれ、健康でありながら経済的理由により修学が困難な者に対して、奨学金制度を設けています。手続き等については、入学式当日のオリエンテーション終了後に説明会を行います。(申請の際は、最終学校の成績証明書〈全成績が記載されているもの〉や〈家計支持者の収入が証明できるもの〉が必要)

1.独立行政法人日本学生支援機構奨学金

日本学生支援機構の奨学金はあくまで貸与であり、先輩奨学生からの返還金と国の予算を主な財源としています。修了後に返還の義務があります。

奨学金種類(平成29年度参考)

第一種奨学金(無利子)

■貸与月額(申込者が自由に選択できます)
修士課程:50,000円、88,000円

第二種奨学金(有利子)

■貸与月額(申込者が自由に選択できます)
修士課程:50,000円、80,000円、100,000円、130,000円、150,000円

◎上記の奨学金貸与月額等は、平成29 年度の金額を参考として記載。

2.香和会特待制度(香和会は、聖徳大学大学院・聖徳大学・聖徳大学短期大学部の通学課程の卒業生からなる同窓会です)

香和会員の子女、または孫、そして香和会員本人を対象とした制度です。対象者は出願と同時に申請することで、入学金を10万円免除します。
親子二世代、三世代間の入学や、卒業生のキャリアアップ・再チャレンジに際しての入学を支援する特待制度です。
※入学金が免除となる他の特待制度の対象者は、適用対象外となるのでご注意ください。
※希望する人は、「香和会特待制度申請書」をお取り寄せください。詳しくは入学センターまでお問い合わせください。

3.その他

地方公共団体(各都道府県、市町村)の奨学金や企業その他育英団体の奨学金など数多くあるが、応募にあたっては学生が直接行うものと、大学を通じて行うものがあります。

教育訓練給付制度(一般教育訓練給付)【指定申請中】

本制度は働く人の主体的な能力開発の取組みを支援し、雇用の安定と再就職の促進を図ることを目的とする雇用保険の給付制度です。

一定の条件※を満たす雇用保険の一般被保険者(在職者)または一般被保険者であった人(離職者)が厚生労働大臣が指定した講座を修了した場合、本人が申請することにより支払った教育訓練経費(入学金および授業料1年分)のうち、20%に相当する額(但し、10万円を超える場合の支給額は10万円)がハローワーク(公共職業安定所)から支給される制度です。

※雇用保険の一般被保険者である人のうち、支給要件期間が3年以上(初めて教育訓練給付の支給を受けようとする人については支給要件期間が1年以上)ある人等。詳細については厚生労働省のホームページを確認してください。
注:看護学研究科看護学専攻修士課程は厚生労働大臣が指定した講座に申請中であり、指定されない場合があることを予めご承知おきください。

納付金等

〈納付金等は、一部改正されることもありますので、ご了承ください〉

(1) 納付金

2年課程<長期履修学生制度利用なし>

納入時期	入学金	授業料	施設費
入学手続時	440,000円	325,000円	150,000円
9月	—	325,000円	150,000円

3年課程<長期履修学生制度利用>

納入時期	入学金	授業料	施設費
入学手続時	440,000円	220,000円	105,000円
9月	—	220,000円	105,000円

4年課程<長期履修学生制度利用>

納入時期	入学金	授業料	施設費
入学手続時	440,000円	170,000円	79,000円
9月	—	170,000円	79,000円

(2) 学生諸費

修了記念品費1期分5,500円

(3) その他

①学生教育研究災害傷害保険料(入学手続時に納入)2年分2,430円(長期履修学生制度利用の場合、3年課程は3,620円、4年課程は4,660円)
②香和会費(同窓会・終身会費)入会金10,000円(入学手続時)、終身会賛20,000円(修了年次徴収)
ただし、聖徳大学大学院、聖徳大学、聖徳大学短期大学部(通学課程)の卒業生は該当しません。

アドミッション・ポリシー 入学者受け入れの方針

1）看護学の基本的な知識や技術を有している人
2）看護実践及び看護学への強い関心と問題意識を有している人
3）将来に対するビジョンと信念を有し、看護実践・看護学の発展に貢献する意欲を有する人
4）看護実践の質的向上に真摯な姿勢で取り組み実践においてリーダーとして活躍したい人
5）看護管理者又は看護教育者として活躍したい人

入試情報

選抜方法

「一般入試」と「社会人特別入試」で選抜する。ただし、併願は不可とする。募集定員は、一般選抜と社会人特別選抜をあわせて8名とする。

1）出願資格

一般入試は、次の①～④のいずれかに該当する者で、かつ看護師の取得者、あるいは平成30年3月に取得見込みの者とする。

社会人特別入試は、①～③のいずれかに該当する者で、かつ看護師、保健師、又は助産師として平成30年3月までに3年以上の実務経験を有する者とする。

①大学（学校教育法第83条に定める大学をいう。以下同じ）を卒業した者又は平成30年3月に卒業見込みの者

②学校教育法第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者又は平成30年3月に授与される見込みの者

③外国において、学校教育における16年の課程を修了した者又は平成30年3月に修了見込みの者

④本学大学院が実施する個別の入学資格審査（注1）により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、22歳に達する者

2）出願前相談

入学者選抜を行うにあたっては、事前に研究計画、実務経験等について、本学研究科の教員との面談を行う。（注2）

3）試験科目及び選抜方法

学力試験（専門科目）と面接試験並びに成績証明書等の事前提出書類により総合的に判定する。

入試区分	願書受付期間（郵送のみ）	入試日	合格発表（合否通知発送日）	入学手続期限（消印有効）
前期	平成29年10月30日（月）～11月14日（火）必着	11月18日（土）	11月22日（水）	11月29日（水）
後期	平成30年1月17日（水）～1月31日（水）必着	2月4日（日）	2月8日（木）	2月15日（木）

注1：学校教育法施行規則第155条第1項第8号の規程に基づいて、4年制大学の卒業生だけでなく、短期大学や専修学校の卒業生で**一定の要件を満たす者には、個別の入学資格審査を行い、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められる場合には出願資格を与える。**（詳細についてはお問い合わせください）

注2：出願前相談を希望される方は、下記フリーダイヤルまでお問い合わせください。

施設案内

良い教育は良い環境からという考えのもと、研究に落ち着いて打ち込める様々な施設が用意されています。

■川並弘昭記念図書館

100万冊収蔵可能な自動書庫も備えている、最新の図書館。静かにじっくりと学習することができる個人閲覧室もあります。

■学生ホール「リュミエール」

『リュミエール』とはフランス語で「ひかり」という意味。光が集まるカフェで、この店内で焼いているパンも好評です。

■ゼミ室

複数のゼミ室が用意されており、授業に応じて使用されます。

■院生室

院生室は無線LANの利用が可能。自主的な学習や研究に利用できます。